



AU 通信

ホームページアドレス
<http://www.unesco.or.jp/ashiya/>
 Eメールアドレス
ashiya@unesco.or.jp

発行：芦屋ユネスコ協会
 会長 広瀬忠子

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

第10回芦屋ユネスコ協会 世界遺産・地域遺産見学バス旅行 [春の播州路 赤穂・坂越の歴史秘話を巡る旅]

在原業平風に書きました。

今年の旅は、播州へお連れいただけるとのことで都人の朝臣にはどんな場所かと気持ちワクワクしておりました。

午前中は、江戸時代塩廻船にて全国の塩市場を支配した田淵家の茶道具、蹴鞠箱、鶴丸紋様椀揃など赤穂市立田淵記念館にて拝観いたしました。

今は懐かしいJALのマークにこんな処で会えるとは夢にも思いませんでした。

午餐は森副会長と社長が小学校の同級生という田淵家系列赤穂パークホテルにて12椀のフレンチ会席を賞味させていただきました。

午後は内蔵助ゆかりの大石神社に参拝し、47義士の石像（なぜかお顔がペルシャ風）を拝謁し（同行の義士末裔の姫も感激！）、さざれ石の由来などお聞きしました。

その後、県立赤穂海浜公園内にある赤穂市立海洋科学館・塩の国にて塩の出来るまでを勉強させていただきました。

最後は、赤穂の旧市街というべき坂越へ海沿いの山道に咲く一目5000本の五分咲きの桜を見ながら行きました。そこは、タイムスリップしたような白壁の街並みの中にぶらりと入った奥藤酒造のとき酒にほろ酔い、

藤原・平城・平安京1300年を担った藤原一族の巴紋様やライオン紋様の屋根瓦に同行のイラン出自の姫君は驚嘆の言葉を発したのでございます。

この事は、貝の口のように口外ならぬという意味か牡蠣の潮さい市場に立ち寄り帰路につきました。牡蠣忘れぬよう朝臣が古今集第349段にて謡った「桜花散りかひくもれ老いらくの来むといふなる道まがふがに」を一首献上し筆を置きます。

現代語訳（桜花よ、直ぐに老いがやってくるだろうから、今その道を埋め尽くすほどに花弁を散らしておくれ。） 芦屋ユネスコ協会理事 中川 明



2010年度 総会 出席のお願い

下記の日時で、本年度の総会が開催されますのでご予定ください。

日時: **6月18日(金曜日)午後 5時30分**

場所: **市民センター 301室**

総会終了後、直ちに芦屋警察署長 柳内 雅人様の **記念講演** 「景観のすばらしい街・芦屋市」があり、その後、隣接の多目的ホールにおいて **会員交流懇親会(パーティー)**を行います。

案内とご返事の往復ハガキを差し上げますので、到着次第、すぐに出欠の返信をして下さい。万一欠席の場合は委任状に必ず署名・捺印して返信して下さい。

2010年度 年会費 納入のお願い

本年度(4月1日～3月31日分)の芦屋ユネスコ協会の年会費未納の方はなるべく早く納入して下さい。
出来るだけ役員さんに現金で届けて頂ければ有難いです。(領収書をすぐにお送りします)

● 銀行に振込んで頂く場合は

**三井住友銀行 芦屋駅前支店 普通口座 3901693
口座名義 芦屋ユネスコ協会 会長 廣瀬 忠子**

※ 納入の遅くなった方は、6月18日(金)の総会で担当者に現金で納入して下さい。

ご予定頂きたい当面の主要行事と日程………追って詳細連絡します

- ◎ 7月19日(月)10時(JR芦屋駅) 民間ユネスコPR街頭行事(チラシ配布)
- ◎ 8月 7日(土)14時(ラポルテホール) 阪神ユネスコ合同事業(講演&ハープ演奏会・懇親会)
- ◎ 8月15日(日)12時(市民センター) 平和の鐘を鳴らそう行事(含:軽食・懇談会)
- ◎12月21日(火)18時(ホテル竹園) 年末講演会&親睦会(ディナー・ビンゴ・エンターテイメント)

世界寺小屋運動のための「書き損じハガキ」のご提供をお願い致します

編集後記

4

ユネスコ恒例のバストアーも無事に終わりました。今年の桜も温度の具合でかわい
そうな咲き方だったようですね。温暖化の影響でしょうかね?
早いくも総会のお知らせが皆様の手元にお届けする季節になりました。たくさんの
方々に又お会いできるのを楽しみにしています。

本荘 美恵

青年部主催「国際交流会」“GOOD WILL PARTY”大盛況

報告者：青年部部長 梶原 宣子

3月14日(日)午後2時から4時半に芦屋ユネスコ協会青年部主催による国際交流会“Good Will Party”が芦屋商工会館において、来賓・会員80名強の参加を得て、盛大に開催されました。

廣瀬会長による挨拶では、ユネスコの説明とユネスコ精神である「平和の心」を持つことの大切さをお話頂きました。

初めの舞台パフォーマンスはプリティーさんによるインドの民謡から始まり、インド民謡独特のエキゾチックな歌声に酔いしました。この後に交流イベントとして5テーブル対抗のペーパータワー・ゲームを行いました。制限時間内にいかに紙で高い塔を作るかがこのゲームのルール。初めて会う人でも、チームでみなさんとも盛り上がっていました。

その次の舞台パフォーマンスでは可愛らしい子どもたちにも一緒にタイのダンスを踊って頂きました。とても煌びやかで美しい衣装に纏われて踊る姿にみなさん目が釘付けでした。

交流会タイムでは、メキシコ料理、タイカレー、ちらし寿司などの軽食が用意されており、他にも5つの文化紹介ブースを回ったり、会場で色んな方とお話をしたりなど楽しんでおられました。

ブースではアジアの遊びを紹介するアジアおもちゃブース、着物を試着できる日本ブース、インドの楽器に触れたり民族衣装のサリーを試着できるインドブース、英会話をネイティブの方と楽しめる英会話ブース、そして世界寺小屋運動をはじめとした私たちのユネスコ活動を紹介する芦屋ユネスコ協会青年部ブースを設置しました。

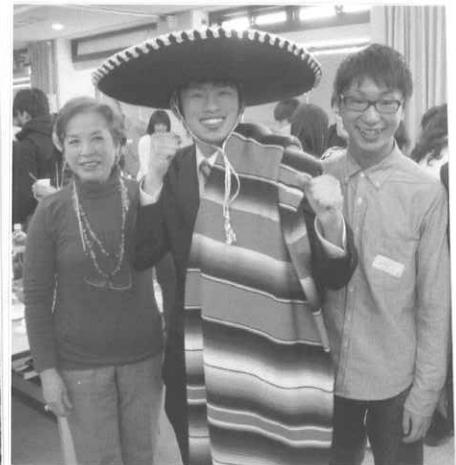
最後の舞台パフォーマンスはダイチンさんによるモンゴル民謡で、モンゴルの伝統楽器の演奏と併せて二重歌唱のホーミーを披露して頂きました。

最後にメキシコ出身のガダルーペ・伊藤さんから日本に来た頃のお話をして頂いた後、青年部長の梶原からの挨拶でこの国際交流会を盛大に終えることができました。

サポートスタッフのみなさま、ご協力頂いた数多くの団体様、他ユネスコ協会の会員の皆様、そして芦屋ユネスコ協会の多くの皆様にこの“Good Will Party”開催につきまして多大なご支援を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

—ご協力頂いた団体様一覧—

・芦屋市教育委員会・JICA兵庫・兵庫国際交流協会・NPO芦屋国際交流協会・子ども多文化共生センター・県立芦屋国際高等学校・神戸日伊協会・神戸日独協会・神戸国際協力交流センター・関西日印協会・北野インド倶楽部・神戸日豪協会・アジアこども広場・西宮国際交流協会・iNetwork・多文化共生センターひょうご・タツサニータイカルチャーセンター・甲南女子大学・関西学院大学・園田学園女子大学・カナディアンアカデミー・ISC(国際学生会議)・甲南大学・神戸学院大学・神戸国際大学・神戸夙川学院・日本ユネスコ協会連盟・エリーニュネスコ協会・ユネスコ協会青年部関西連合



10年度・芦屋ユネスコバスツアー 『忠臣蔵、もう1つの真実』

今年のバスツアーでは、忠臣蔵縁の大石神社と赤穂城跡、塩の取引を手掛けた田淵家が所蔵する茶道具類を展示した田淵記念館、そして海からの塩の作り方について紹介する赤穂市立科学館を見学します。この場所は、たまたま同じ赤穂市内にあったから見学にいく訳ではありません。実は、これらの見学地をまとめて巡らなければ分からぬ、赤穂という土地の歴史があるのです。

赤穂と云ったら、忠臣蔵が有名です。この事件の陰には塩が絡んでいたのでは?とする説があります。

実は、忠臣蔵に登場する浅野家と吉良家には一つの共通点がありました。それは、ともに塩の産地だったことです。

さて、塩はどうやって作られているか御存じでしょうか? 大きく2通りあります。一つは岩塩の採掘、もう一つは海水を塩田に引いて乾燥させて作ります。浅野家の領地である赤穂は瀬戸内海に面し、海塩作りが盛んな土地でした。一方、吉良上野介の領地の一つである碓氷峠(群馬県)は岩塩の採掘地でした。山地にも関わらず塩が取れる領地を持つ吉良家にとって、塩の販売は重要な収入源でした。しかし、元禄期(18世紀初頭)になると、次第に塩田で生産される塩に押されて、岩塩から作った塩は売れなくなってしまいます。塩田は海から無尽蔵な塩の原料である海水の供給により安く塩を製造することが出来たのに比べて、一方、山を掘り進んで得る岩塩はコスト高になりがちでした。

そして、もう一つの重要なポイントは“塩の白さ”です。

不純物を多く含む岩塩は、どうしても黒っぽく、消費者は次第に塩田で生産される“純白の塩”を好むようになりました。当時、赤穂の塩田で製造される“純白の塩”的方法は、最先端技術で、秘伝中の秘傳とされ、安くて品質が良く、純白の赤穂の塩は、全国ブランドとなりました。そのお陰で、赤穂藩は5万3千石でしたが、塩の専売で石高以上に豊かだったのです。

ところで、吉良上野介は、忠臣蔵に描かれているような欲深くて狡猾な人物では無く、実際は領民思いで、名君の誉も高い人物でした。そんな吉良にとって、赤穂の塩に押されて、困窮する製塩業者や、製塩に携わる領民を放ってはおけませんでした。吉良は、何とかして“純白の塩”を製造する技術を手に入れようと浅野に迫りましたが、浅野は拒絶します。その結果、吉良と浅野の両家には根深い禍根が残り、それが後に忠臣蔵として知られる赤穂事件の発端となつたとも云われているのです。

忠臣蔵とは?

元禄14年3月14日(1701年)、江戸城内で播州赤穂藩主の浅野内匠頭長矩が、高家旗本の吉良上野介義央に対して斬りかかり、切腹処分となつた。

翌年12月14日、浅野家の家老であった大石内蔵助ら、赤穂浪士47名(四十七士)が吉良邸に討ち入りをし、吉良上野介の首を泉岳寺の主君の墓前に捧げた。四十七士の討ち入りは歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』に代表されるように、さまざまな演劇・読み物・映画・TVなどで演じられるようになった。

森 亮資・岩田 京子